

『Live!Eclipse はマラカイボに二匹目のドジョウを見たか !?』

L!E98中継班

【L!E復活】

L!E97 が所期の目的を果たせ、ほぼ成功裏に終わってしまうと、ボランティア集団の悲しさか、潮が引くように勢いが萎えてしまい、ホームページは、無惨にも放置され続けてしまった。誰もが98年2月の日食は、中継しないだろうと思い始めていた頃、Sky&Telescope 2月号に掲載された記事は、我々に再び火を付けることになってしまった。これをきっかけに、1/19に関係者による緊急会議を持ち、L!E98は動き始めた。

日食まで2ヶ月、再び動き始めたメーリングリストには懐かしい名前が次々と現れ始め、L!E98のホームページはまもなく立ち上がった。サーバーを引き受けてくれる企業のめども付くと、メールの数が日増しに増えていき、前回の加速度が完全に甦った。

今回は、L!E97のようなインマルサットを用意できる資金的援助が何もなく、予定していたツアーも手配旅行になり、現地での回線確保とマンパワーが一番の問題だった。誰もが自腹と覚悟しながら、電話回線でどれだけのこと出来るかを考えねばならなかったが、我々はMaracaiboから日食の映像と共に、皆既前後の地上の様子をパノラマビデオ～回転するビデオカメラの映像を、明星大学観測隊の協力によりGuadalupeからは、日食の映像を送ることにした。

【地元の協力】

Maracaiboでの協力は、日系人会のついで、Sさんから協力の申し出をいただくことが出来た。またMaracaibo市内の新聞社が協力してくれそうだと連絡も得ることが出来、我々は、各自めいっばいの機材を抱え現地に飛んだ。

2/24に現地に入ると早速Sさんと会い、彼のついで地元天文家Victor氏を紹介された。Victor氏は、地元新聞社に我々への協力を取り付けてくれ、この新聞社ビルの屋上から中継することになった。前日には、屋上まで電話回線3本と電気工事が済まされ、その手際よさには驚かされたが事前の中継テストは、すべての機材が無事動作した。

【Xディ】

当日、新聞社職員やTV中継のスタッフで屋上は、ごった返していた。新聞社で用意した机に、ノートPCを並べ、中継の準備を始めた。給水器まで用意された。前日動作確認したはずのPC1台が正常に動作せず、結局回転カメラは、太陽像と切り替えながら生中継することにした。屋上の別なエリアでは、会社の重役連中の日食観望のためか、テントに綺麗なイスが並べてあった。そこにいた給仕姿のおじさんは、我々やTV中継クルーに冷たいソフトドリンクを配ってくれた。連日の晴れで、気温はすでに35°Cに達している。

予定通り、第1接触から絵を送り出した。しばらくは、のんびりと過ごしていられたが、第2接触数分前には、パノラマカメラに一人、中継用ビデオカメラに一人、拡大スチール写真に

一人とそれぞれの担当に集中した。第3接触を過ぎ、無事ビデオ画像が送られてる事を確認すると、3人の中継班に安堵の快い疲労感に包まれた気がした。

3泊4日の短い滞在だった。昼はマスコミの取材や中継テストと本番、夜は日本とホームページや中継についての通信と多忙極まる日々だったが、地元の人々の協力を得て、L!E98 はなんとか二匹目のドジョウを見ることができたようだ。

帰国後、Guadalupe からの映像は、回線の状態が安定せず完全に送ることは出来なかった事を知った。が、90カ国から200万件を越えるヒットがあり、27000人以上の人が中継時にアクセスしてくれたという。6台用意したサーバーを更に当日4台追加したが、満足にアクセス出来なかった多くの方には、この場を借りてお詫びしたい。また中継を支えてくれた方々を始め、HP をアクセスしてくれた方々にこの場を借りて感謝したい。